

令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

市民の参加と協働を進める

コーディネーション研究集会

JVCC2022

地域での実践を支える
つながりや学びを生み出す
“越境型プラットフォーム”

リアル会場（東京・京都・大阪） & オンライン

2022年12月17日 **土** – 12月18日 **日**

参加費

一般 6,000円 二人目割引*5,500円 JVCA正会員・準会員 5,000円
*同組織の2人目以降の方へ割引があります。

定員

200人(先着順)

申込締切

2022年11月28日 **月**迄

● ● ● 開催趣旨 ● ● ●

1994年にスタートし、1996年から毎年開催してきた「全国ボランティアコーディネーター研究集会(JVCC)」。2021年、2022年は2月に、対象とする分野や参加者を広げ、「市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会」に衣替えをして実施しました。そして、今回は「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会(JVCC)」と名称をさらに変更して開催します。

主催の日本ボランティアコーディネーター協会は、2001年の設立時より、ボランティアコーディネーターの「ネットワークの確立」「専門性の向上」「社会的認知の促進」を掲げてきました。そして、現在は、「ボランティアコーディネーションの機能を普及させる」ことにも力を入れています。これは、これまで積み重ねてきた「市民の参加意欲と行動力を引き出し、人や組織をつなぐコーディネーションの機能」が、現代社会の様々な課題、領域、地域で重要であることを確信したからにほかなりません。福祉、医療、保健、多文化共生、環境、教育、災害など実に多様な場面で、参加を進めるコーディネーターの実践は広がっています。

今回は、ここ2回のテーマとしてきた「越境×対話×共創」を引き継ぎながら、市民の参加を支える人材の“越境型プラットフォーム”の構築を目指します。参加することで得る、新たな学びとつながりが、地域での共創の実践に発展していけば幸いです。オンラインと対面での開催という新しい挑戦ではありますが、様々な分野で活躍する皆さまが、それぞれの知識や経験を持ちよることにより、全国の仲間とともに、「参加と協働」をさらに進める機会となることを願っています。

市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 実行委員長
鹿住 貴之(JUON(樹恩)NETWORK)

● ● ● 参加対象 ● ● ●

地域や組織で人や団体のコーディネーションに携わる方
市民の参加や協働の場をつくるコーディネーション実践に関わる方
異なる分野とつながり、社会課題の解決をめざしたい方

● ● ● 開催概要 ● ● ●

2022年12月17日(土) 13:30~16:30

12月18日(日) 09:30~15:30

参加費

一般 6,000円 二人目割引*5,500円 JVCA正会員・準会員 5,000円
*同組織の二人目以降の方へ割引があります。

方法

リアル会場(東京・京都・大阪) & オンライン

オンライン(Zoom)について

- ・ パソコンでの視聴を推奨いたします。タブレット、スマートフォン等での参加も可能ですが、ブレイクアウトセッションの参加や資料の閲覧において不具合が出る場合がありますので予めご了承ください。
- ・ マイク、カメラ、スピーカーが使用できるデバイスをご活用ください。
- ・ 一人1デバイスでご参加ください。
- ・ 最新のバージョンにアップデートをお願いいたします。

主催

認定特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会
市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 実行委員会

会場案内

東京会場

①東京ボランティア・市民活動センター

東京都新宿区神楽河岸1-1
飯田橋セントラルプラザ10階

②飯田橋セントラルプラザ

東京都新宿区神楽河岸1-1
飯田橋セントラルプラザ12階

どちらの会場も

- ・ JR「飯田橋駅」西口からすぐ
- ・ 地下鉄(有楽町線・東西線・南北線・大江戸線)
「飯田橋駅」B2b出口からすぐ



※階数にご注意ください。

京都会場

京都経済センター

京都府京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78

- ・ 京都市営地下鉄烏丸線「四条駅」北改札からすぐ
- ・ 阪急電車京都線「烏丸駅」26番出口直結
- ・ 京都市営バス「四条烏丸」から徒歩すぐ



大阪会場

①大阪府社会福祉会館

大阪府大阪市中央区谷町7-4-15

- ・ 地下鉄谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目駅」4番出口から徒歩5分
- ・ 地下鉄谷町線・千日前線「谷町九丁目駅」2番出口から徒歩8分



②大阪ボランティア協会

大阪市中央区谷町2-2-20 2階
市民活動スクエア「CANVAS谷町」

- ・ 京阪「天満橋駅」14番出口から徒歩8分
- ・ 大阪メトロ「天満橋駅」3番出口から徒歩4分
- ・ 大阪メトロ「谷町四丁目駅」1番出口から徒歩4分



※宿泊について

宿泊の手配は主催者および事務局では行いませんので、各自でお願いいたします。

● ● ● プログラム一覧 ● ● ●

★はリアル会場+オンラインのハイブリッド形式

日程	時間	No	会場	タイトル	
12月7日(水) ~18日(日)		オープニング		「当事者」の声を聴き、「当事者」となって社会を築く 誰も取り残されずに参加できる社会づくりに向けて	オンデマンド配信
12月17日(土)	13:30 ~ 16:30	A1	東京①	地域の中で社協が協働相手として期待されるためには？ 「どうせ社協・・・」を超えよう！	
		A2	京都	こんな時代だからこそ、“攻めるコーディネーション”越境しなはれ！ 逆境にこそ新時代がはじまる	
		A3	大阪① ★	えっ、その表現って、どうなの？ 言葉から考えるボランティアの価値	
		A4	オンライン	防災×災害時要配慮者 当事者とともに取り組む道筋を考えよう～障害のある人・外国人のケースから	
		A5	オンライン	若者×地域 若手フリーランスに聞く！「コーディネーターとは？」	
		A6	オンライン	行政・制度へ働きかける ソーシャルアクションの「工夫」と「課題」を持ち寄ろう	
		A7	オンライン	コーディネーターとして、どう「機会」を提供していくか 背中への押し方を考えよう	
12月18日(日)	09:30 ~ 12:30	B1	東京① ★	協創を生み出す技術(コツ)を考える まだまだやるよ。生協×社協シリーズ	
		B2	東京②	“被災者支援とは何か”を、コーディネーションの視点から考える 目の前のことへの対応と先を見据えた一貫性のある支援	
		B3	京都 ★	「学生の成長」と「地域貢献」をどうコーディネートします？ 学生、大学、活動の場の相利を目指しまひよ	
		B4	大阪② ★	地域を基盤にした協働のネットワークづくりを進めよう 実践事例から考える、地域のこれから	
		B5	オンライン	多文化共生×地域福祉 共生社会の実現に向けて、外国人住民とのつながりをつくるには	
		B6	オンライン	地域共生社会の実現と行政・専門職・地域住民の参画 制度の隙間を埋めるゴミ出し支援活動や市民後見活動の仕組みづくり	
		B7	オンライン	デジタル活用によって、参加をひろげる デジタル人材や企業ボランティアの実践から学ぶ	
	B8	オンライン	子どもの豊かな体験が大人と地域を変える！ 学びを起点とするアプローチで、多彩なつながりを創出するには？		
14:00 ~ 15:30		クロージング	明日からのコーディネーションのための 振り返りと分かち合い	各会場 & オンライン	

オンラインのみ

希望者のみ・出入自由

放課後タイム

まだまだ話したりない方、大歓迎！
各オンライン分科会の終了後に20分間の放課後タイムを開催！
ゆる～く会話や質問を続けられる時間です。
講師にも参加いただける場合がございます。

オンラインのみ

希望者のみ・出入自由

参加者交流会

● 12月17日(土) 17:30頃～ オンライン開催

1日目の分科会を終え、夜は楽しい交流タイムを過ごしましょう！
みなさまの参加をお待ちしております。
詳細は追ってWebページ等でお知らせいたします。

オープニングセッション

12月7日(水)~18日(日) オンデマンド配信

「当事者」の声を聴き、「当事者」となって社会を築く

誰も取り残されずに参加できる社会づくりに向けて

村上靖彦さんは、著書『子どもたちがつくる町 大阪・西成の子育て支援』の中で、子どもたちの声をしっかりと受け止め、子どもたちの思いを起点に、誰もが取り残されずに参加する共同体づくりに奮闘する実践家たちの姿を活写されています。支援の当事者・子どもたちを“お客様”とせず、まさに子どもたちが自分たちの人生を自らつくるため、支援者が奮闘を続けています。

小島祥美さんは、研究者であるとともに、外国につながる子どもたちへの就学支援などに取り組む実践家でもあります。大学生が主体的に参加するプログラム作りや、全国調査に基づきアドボカシー活動にも積極的に関わってきました。多文化共生は日本人 / 日本社会自体の問題であり、私たち自身も当事者。外国人も日本人も当事者として関わることが重要な課題となっています。

戸田千登美さんは、長野市社会福祉協議会のボランティアコーディネーターを長く務めた後、今は高齢者の社会参加を幅広く進めています。市民活動の担い手として期待されている高齢者が、内発的に活動の意欲を高めつつ、社会課題の解決する主体・当事者となれるよう多様な取り組みが進められています。

3人のクロストークを通じて、2日間のプログラムを始めるにあたって、参加者が大切にしたいポイントを確認できるオープニングセッションにしたいと思います。

シンポジスト 村上 靖彦さん



大阪大学 人間科学研究科 教授・感染症総合教育研究拠点CiDER兼任教員。専門は哲学。著書:『子どもたちが作る町 大阪・西成の子育て支援』、世界思想社、2021。『ケアとは何か 看護・福祉で大事なこと』、中公新書、2021。『「ヤングケアラー」とは誰か 家族を“気づかう”子どもたちの孤立』、朝日選書、2022他。

シンポジスト 小島 祥美さん



東京外国語大学 多言語多文化共生センター長(准教授)。埼玉県生まれ・東京育ち。小学校教員、神戸でのNPO職員を経て、岐阜県可児市での研究活動から同市教育委員会の初代外国人児童生徒コーディネーターに抜擢され、不就学児ゼロを達成。愛知淑徳大学教授を経て、2021年度から現職。大阪大学大学院博士課程修了。

シンポジスト 戸田 千登美さん



長野県長寿社会開発センターシニア活動推進コーディネーター。長野県出身。子育て中のボランティア活動がきっかけで社協職員になりボランティアコーディネーションに出会う。多くのシニアと出会い、対話の力、居場所の力を痛感している。まちの縁側推進中。

コーディネーター 早瀬 昇さん



大阪ボランティア協会 理事長。大阪府出身。京都工芸繊維大学工学部電子工学科卒。学生時代に各種の市民活動に参加して以来、約40年間、市民の「参加の力」が生み出す創造力を生かした民主的な社会づくりに取り組む。水瓶座。赤ワイン党。

12月18日(日) 14:00~15:30

各会場 & オンライン

クロージングセッション

明日からのコーディネーションのための振り返りと分かち合い

”越境型プラットフォーム”で過ごす時間もあとわずか。すべてのプログラムを終えて、全体での振り返りの時間です。新たな学びや気づき、感じたことを話し、分かち合いましょう。今後のコーディネーションにつなげていくためにお互いの成果を確認し合います。

A1

30名定員

地域の中で社協が 協働相手として期待されるためには？

「どうせ社協・・・」を超えよう！

地域社会の課題に取り組む組織として、社会福祉協議会(以下、社協)はさまざまな団体、組織と協働しながら解決にあたっていきます。ところが、時に「社協は頼りにならない」「相談したけれど断られた」など、ネガティブな話を聞くこともあります。

実際に、地域内外のNPOなどと共に課題解決にあたっている社協の事例をお聞きし、協働の相手として頼りにされる社協とは、どうあるべきなのかを一緒に考えましょう。

参加対象

NPOなど他団体との協働に悩んでいる社協職員 / テーマに関心がある方

事例発表者 有原 領一さん(宮古市社会福祉協議会(岩手県) 総務課長)
高木 直さん(調布市社会福祉協議会(東京都) 市民活動支援センター長)
児島 秀樹さん(グッドモーニング調布!(東京都) 代表)

進行 唐木 理恵子さん(紬ワークス 代表)

〈担当〉熊谷紀良(東京ボランティア・市民活動センター) / 武藤祐子(千代田区社会福祉協議会)

A2

28名定員

こんな時代だからこそ、 “攻めるコーディネーション”越境しなはれ！ 逆境にこそ新時代がはじまる

「集まらない」「訪問できない」と、コロナ禍で感じた「～できない」がたくさんありました。「Withコロナ」「Afterコロナ」の時代と呼ばれるいま、市民はボランティアコーディネーターに何を求めるのでしょうか。

「できない」に飲み込まれず、「こんな時代だからこそ」と、新たな“攻めるコーディネーション”も生まれています。

この分科会では、社協の“出島”であるボランティアセンターや地域での活動のなかで生まれた“攻める”取り組みを聞き、明日からの「私のコーディネーション」を考えます。

参加対象

コーディネーションに「新たな」視点や「違った」視点を探している方
/ 日ごろ社会福祉協議会やボランティア団体等のコーディネーションで悩んでいる方

ファシリテーター 西川 正さん(ハンズオン!埼玉 副代表理事)
与力 長谷部 治さん(神戸市社会福祉協議会 地域支援部担当課長)

事例発表者 須田 正子さん(地域交流ボランティア「よりあい*ええげえし」(埼玉県) 事務局長)

巽 里美さん(神戸市兵庫区社会福祉協議会ボランティアセンター
ボランティアコーディネーター)

〈担当〉土田恭仁子(宇治市社会福祉協議会) / 橋詰勝代(高島市社会福祉協議会)

A3

30名定員

えっ、その表現って、どうなの？

言葉から考えるボランティアの価値

多種多様な分野で活動するボランティア。この「ボランティア」を言葉から考える分科会です。ボランティア活動が「奉仕」や「慰問」と報道される。「ボランティア派遣」「有償ボランティア」「ボランティアの活用」という言葉がニュースなどで使用される。その度に、モヤモヤを感じることはありませんか？どうして、えっ？と思うのか。そこに潜む違和感を起点として「ボランティア」にまつわる言葉のあれこれ、ボランティアの価値について語り尽くしてみませんか？

参加対象

「ボランティア」の表現にモヤモヤを感じているすべての方

問題提起者 清水 由子さん（岐阜市教育文化振興事業団 岐阜市生涯学習センター
ボランティアコーディネーター）

事例発表者 石黒 建一さん（社会福祉士事務所うららと ソーシャルワーカー）

情報提供者 早瀬 昇さん（大阪ボランティア協会 理事長）

進行 竹脇 恵美さん（長野県長寿社会開発センター木曾支部
シニア活動推進コーディネーター）

〈担当〉JVCA報道アクションチーム

熊澤利和(高崎経済大学) / 高橋義博(府中市市民活動センタープラッツ)

橋詰勝代(高島市社会福祉協議会) / 疋田恵子(杉並区社会福祉協議会)

A4

30名定員

防災×災害時要配慮者

当事者とともに取り組む道筋を考えよう
～障害のある人・外国人のケースから

誰ひとり取り残さないインクルーシブ防災の実現が目指されるなか、いざというとき、高齢者・障害のある人・情報伝達に配慮が必要な外国人など要配慮者の人たちとつながるには、日常的な取り組みと助け合える関係を築くことが大切です。

この分科会では、障害者と多文化共生の2つの分野から、災害時の配慮の視点や地域を支える外国人防災リーダーの活動など、具体的な取り組みや当事者の声を聞きます。障害のある人や外国人が、助けられる存在としてだけでなく平時から地域の防災に参加していく道筋とコーディネーターの働きを、一緒に考えませんか。

参加対象

地域防災に取り組んでいる方 / 災害時要配慮者とのつながりを築こうとしている方
/ テーマに関心がある方

事例発表者 古賀 由美子さん（北九州市障害福祉団体連絡協議会 常任委員）
遠山 昌子さん（生き方のデザイン研究所 代表理事・コーディネーター）

上原 ジャンカルロさん（三重県国際交流財団 専門員）

玉城 エリカさん（多文化防災ネットワーク愛知・名古屋(TABOネット)）

コメンテーター 明城 徹也さん（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
事務局長）

進行 藤井 美香さん（横浜市国際交流協会）

矢富 明德さん（佐賀県国際交流協会）

〈担当〉鹿住貴之(JUON(樹恩)NETWORK) / 菊池哲佳(多文化社会専門職機構)

A5

25名定員

若者×地域

若手フリーランスに聞く！「コーディネーターとは？」

コーディネーターと名の付く職業や職名、働き方が溢れている現代。若年層の特徴に、一定期間、地域で集中的にコーディネーションを行い、任期満了後、また別の地域や職場に移り活動する「流動性の高い存在」としての側面がある様に思います。

この分科会では、ボランティアコーディネーションの定義を確認しながら、若年層で越境を意識している3名の活動に照らして考えます。また、参加者同士の意見交換の時間を確保し、今後どのようなコーディネーターが求められ、そのようになるにはどうしたら良いかを、共に学びほぐす時間とします。

参加対象

若年層のコーディネーター活動に興味・関心がある方

鼎談者 森山 円香さん（元 神山つなぐ公社 理事・ひとづくり担当）

大塚 光太郎さん（たかた☆ゆめキッチン／ライフリンク

元 立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災

復興支援プロジェクト陸前高田コーディネーター）

松村 幸裕子さん（共奏学舎 事業評価コーディネーター）

ファシリテーター 土崎 雄祐さん（とちぎ市民協働研究会 専務理事）

〈担当〉仙波愛優佳(和光市社会福祉協議会) / 藤掛素子(明治大学ボランティアセンター)

A6

30名定員

行政・制度へ働きかける

ソーシャルアクションの「工夫」と「課題」を持ち寄ろう

コーディネーターに寄せられる相談は、現行の制度や仕組みでは対応が難しいものが含まれます。想いあるボランティアによって支えられるだけではなく、コーディネーターが提言をして、制度や仕組みをつくっていくことも大切です。しかし、行政や制度への働きかけは、簡単ではありません。

この分科会では、みなさんが取り組んでいるソーシャルアクション・行政や制度への働きかけについて、「工夫」と「課題」を持ち寄り、それぞれの実践から学びます。これから行政・制度へ働きかけを行いたいという人も、参加いただき、一緒に解決策を考えましょう。

※自身の事例を持ち寄れる方は、分科会前に実践事例の情報提供をお願いします。

参加対象

「行政・制度へ働きかけ」を行っている方 / 「行政・制度へ働きかけ」に取り組みたい方 / ソーシャルアクションに関心がある方

コメンテーター 阿部 陽一郎さん（中央共同募金会 常務理事・事務局長）

話題提供者 佐藤 正枝さん（日本社会福祉士会 地域包括ケア推進委員会

/ 委託型地域包括支援センター 管理者）

進行 上田 英司さん（日本NPOセンター 事務局次長）

A7

40名定員

コーディネーターとして、 どう「機会」を提供していくか

背中への押し方を考えよう

「機会があれば参加したい」という声をよく聞きますが、どのような「機会」があれば参加につながるのでしょうか？

興味関心や問題意識はあるのにもかかわらず、実際の参加につながっていない層に、私たちはどう働きかければよいのでしょうか？これまでもそれぞれの現場で、背中を押してみたり、ハードルを下げてみたりしてきましたが、なかなかうまくいかないことも少なくないでしょう。コーディネーターは、行動することの喜びや面白さ、奥深さをどのように表現し、求められている「機会」をデザインしていくべきでしょうか？

この分科会では、改めて参加と参画の「機会」を提供することについて再考し、それぞれの現場での実践へとつなげていく場とします。

参加対象

テーマに関心がある方

コメンテーター 川中 大輔さん（シチズンシップ共育企画 代表

/龍谷大学 社会学部准教授）

事例発表者 杉浦 健さん（三田市・市民活動推進プラザ サポートスタッフ）

開澤 裕美さん（中央大学ボランティアセンター

ボランティアコーディネーター）

進行 鹿住 貴之さん（JUON(樹恩)NETWORK 理事・事務局長）

分科会B

12月18日(日) 09:30~12:30

B1

50名定員

協創を生み出す技術(コツ)を考える

まだまだやるよ。生協×社協シリーズ

これまで、この分科会では相互理解が越境の素地になり、気軽に話し合える関係づくり(対話)が新たな活動を生み出すカギになること、協力関係を継続的な仕組みにするためには意図的な組織間の関係づくりが不可欠であることを明らかにし、その方法について具体的な事例に基づき確認する場を提供してきました。第3回目となる今回は、過去の分科会で見出した視点や協創を生み出すために必要なフレームワークなどの技術が、他の事例でも活用ができるかを参加者とともに検証し、協創を生み出す技術(コツ)について考えます。

参加対象

生協や社協の関係者だけでなく、
多様な主体と連携して地域福祉に取り組みたいと考えておられる方

事例発表者 徳永 雄大さん（長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター主任）

中谷 隆秀さん（長野県生活協同組合連合会 事務局長）

新宅 太郎さん（吹田市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター）

馬場 徳二郎さん（大阪よどがわ市民生活協同組合 専務スタッフ）

進行 熊谷 紀良さん（東京ボランティア・市民活動センター 統括主任）

ファシリテーター 文珠 正也さん（日本協同組合連携機構 連携推進マネジャー）

コメンテーター 藤井 智生さん（生活協同組合コープこうべ 第2地区本部 マネジャー）

小藪 真彦さん（西宮市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター）

B2

36名定員

“被災者支援とは何か”を、 コーディネーションの視点から考える

目の前のことへの対応と先を見据えた一貫性のある支援

近年、災害が頻発化・激甚化する中で、被災者への支援は行政だけでなく、民間との連携が重要視されています。国の防災基本計画においても、「行政・NPO・ボランティア等」の三者連携という言葉が記載され、その「活動調整」を担う“中間支援組織”の役割も重要性を増しています。

この分科会では、多様化するコーディネーション場面において求められるコーディネーターの役割を確認するとともに、被災者支援のためのコーディネーションにおいて大切にしたい視点と達成すべきゴールイメージを共有したいと思います。

参加対象

被災者支援におけるコーディネーションに関心がある方

講師 明城 徹也さん（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) 事務局長）

事例発表者・コメンテーター 篠原 辰二さん（Wellbe Design [ウェルビー・デザイン]
理事長）

浅野 幸子さん（減災と男女共同参画 研修推進センター
共同代表・プロジェクトコーディネーター）

進行 後藤 麻理子さん（日本ボランティアコーディネーター協会 理事・事務局長）

B3

40名定員

「学生の成長」と「地域貢献」を どうコーディネートします？

学生、大学、活動の場の相利を目指しまひよ

教育機関である大学に設置されたボランティアセンターでは、社会の課題を発見し、解決に向けた行動をすることを通して、学生が人間的に成長することを目指しています。また、学生の社会参画を通して地域づくりに貢献することにも取り組んでいます。「学生の成長」と「地域貢献」。この2つの目的、目標を達成するためにコーディネーターはどのようなプログラムや学生の参画を計画すれば良いでしょうか。最新の研究による問いに向き合って、実践者の立場からコーディネーションのあり方を検証していきます。

参加対象

大学ボランティアセンター関係者 / 大学教員
/ 学生を地域で受け入れている(受け入れたい)団体の関係者
/ 学生の活動を地域でコーディネートしている中間支援組織のスタッフ
/ このテーマに関心がある方

コメンテーター・事例発表者 川田 虎男さん（聖学院大学ボランティア活動支援センター
アドバイザー）

事例発表者 山崎 智文さん（京都産業大学ボランティアセンター
ボランティアコーディネーター）

開澤 裕美さん（中央大学ボランティアセンター
ボランティアコーディネーター）

ファシリテーター 小原 宗一さん（北区社会福祉協議会(東京都)）

B4

30名定員

地域を基盤にした 協働のネットワークづくりを進めよう

実践事例から考える、地域のこれから

地域社会をベースに、多様な市民・住民団体やNPOなどが連携して、市民・住民が主体となって、地域の課題を解決し、豊かな地域の暮らしを創造していく。多くの地域で、その模索が進んでいます。しかし地域には、多様な歴史と特色をもつ既存組織がそれぞれに活動を積み重ねています。いずれも自団体の運営に追われ連携などをする余裕もないなど、その展開は容易ではありません。

この分科会では、このテーマに取り組む実践事例を共有し、多様な地域で、その地域にあった展開を進めるための鍵を探ります。

参加対象

地域で多様な団体と連携しつつ、市民・住民主体で地域課題に取り組みたいすべての方

事例発表者 戸田 幸典さん（丹波ひとまち支援機構 代表理事）

栗原 穂子さん（ぼらんたす 理事）

コメンテーター 竹端 寛さん（兵庫県立大学 環境人間学部准教授）

〈担当〉佐藤美恵(ぼらんたす) / 杉浦健(共働プラットフォーム)
早瀬昇(大阪ボランティア協会)

B5

40名定員

多文化共生×地域福祉

共生社会の実現に向けて、
外国人住民とのつながりをつくるには

外国人住民の地域での受入れの取り組みは、必要性は感じて「きっかけが作れない」という声も聞きます。国際交流協会等の多文化共生分野、社会福祉協議会等の社会福祉分野、また、NPO等の分野間の重なりとつながりを活かすことで、できることがあります。まず、国際交流協会と社協の日常的な関わりや、コロナ禍を契機としたフードパントリーの活動等、分野を超えて協働する事例を聞きましょう。そして、社会福祉にアクセスしにくい外国人住民を支えるネットワークの形成やコーディネーションのヒントを、みなさんと考えたいと思います。

参加対象

地域で外国人住民とのつながりを築こうとしている方 / テーマに関心がある方

事例発表者 山野上 隆史さん（とよなか国際交流協会 事務局長）

村松 清玄さん（シャンティ国際ボランティア会 国内事業担当）

モデレーター 妻鹿 ふみ子さん（東海大学 健康学部教授

／日本ボランティアコーディネーター協会 代表理事）

進行 矢富 明德さん（佐賀県国際交流協会）

〈担当〉正田恵子(杉並区社会福祉協議会) / 藤井美香(横浜市国際交流協会)
武藤祐子(千代田区社会福祉協議会)

B6

30名定員

地域共生社会の実現と 行政・専門職・地域住民の参画

制度の隙間を埋めるゴミ出し支援活動や
市民後見活動の仕組みづくり

高齢社会、担い手不足、財政効率、多様な視点から、そのメリットを中心として市民へと担い手が拡充、支えられる側と支える側をシームレスにした形で、地域共生社会の実現を目指して進化(深化)してきました。

この分科会では、地域で生活する上で様々な支援を必要とする人の権利を擁護する立場から、生活に密着したゴミ出しの支援活動や市民後見活動の仕組みづくりに関与するコーディネーションの実践報告をもとにワークショップを展開し、必要とされるコーディネーションの視点を学びます。

参加対象 市民との協働に関心がある方

コメンテーター・進行 土屋 幸己さん (コミュニティネットハピネス 代表理事)

ゴミ出し支援活動実践報告者 斎藤 隆一さん (ふるさと奥山の荘 理事長)

市民後見活動支援実践報告者 香山 芳範さん (明石市市民後見センター
主任 / 社会福祉士)

櫻井 由里子さん (明石市市民後見人)

〈担当〉佐藤正枝(日本社会福祉士会) / 疋田恵子(杉並区社会福祉協議会)

B7

30名定員

デジタル活用によって、参加をひろげる

デジタル人材や企業ボランティアの実践から学ぶ

デジタル技術は、いまや、私たちの暮らしに欠かせないものとなりました。さらに、新型コロナウイルスの対策として、デジタル化がより一層すすみました。いままで、移動や時間にハードルがあり参加ができなかった人たちも、デジタル技術を使い、参加することができるようになりました。

一方で、市民活動団体は知識やスキルの面で、デジタル技術の利活用にハードルを感じているところも多くあります。

この分科会では、デジタル人材や企業ボランティアの実践から、デジタルを活用した新たな参加の広がりを学びます。

参加対象 デジタル活用に関心がある方 / 企業との連携に関心がある方

事例発表者 山崎 清昭さん (Code for Japan プログラムディレクター)

金田 晃一さん (株式会社NTTデータ サステナビリティ経営推進部
シニア・スペシャリスト)

ファシリテーター 上田 英司さん (日本NPOセンター 事務局次長)

B8

25名定員

子どもの豊かな体験が大人と地域を変える！

学びを起点とするアプローチで、
多彩なつながりを創出するには？

市民の参加と協働を促す活動には、意図的・偶発的を問わず様々な学びが埋め込まれています。また、子どもたちの学びの場は学校だけに留まらず、暮らしの至る所にそうした場が隠れています。

この分科会では、愛媛県大洲市におけるシトラスリボンの普及啓発と島根県吉賀町におけるふるさと学習を取り上げます。体験活動という形で子どもたちに働きかけを行い、彼らに加え、その周囲にいる大人たち、さらには地域社会全体に変容をもたらしている様子を確認し、そのプロセスにおいてどのようなつながりが育まれているのかを探究していきます。

参加対象

子どもの体験活動のコーディネーションに携わっている方
/ 学びの場づくりに取り組んでいる・関心がある方

事例発表者 福本 政代さん（大洲市立平野小・中学校 地域コーディネーター）

城戸 明美さん（吉賀町教育委員会 課長補佐）

ファシリテーター 土崎 雄祐さん（とちぎ市民協働研究会 専務理事）

〈担当〉齋藤尚久(杉並区教育委員会) / 大藤毅(国立大洲青少年交流の家)
遠山昌子(生き方のデザイン研究所)

分科会選択についての注意事項

今回は会場が分散しています。「会場参加のみ」「ハイブリッド形式」「オンラインのみ」と分科会の開催形式も混在していますので、移動時間やインターネットの接続環境などを勘案して、分科会を選択してください。

開催予告

市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会
ステップアップ・ミーティングを開催します！

開催予定：2023年1月下旬

@オンライン(Zoom) 参加費*無料

集会の成果を地元に戻ってどのように生かしていこうか。ワクワクして持ち帰った成果やヒントをもう一歩進めるために、確実な実践につなげていくために、描きかけたお互いのビジョンやプランを持ち寄ってもう一度話しませんか。もちろん疑問やモヤモヤを解消する場にも活用してください。

日時が確定したら本集会に参加された全員にメールでご案内をいたします。

● ● ● 申し込み ● ● ●

①お申込

下記Webページのフォームからお申込ください。 ※下記QRコードからもお申込可能です。
JVCC2022[Webページ] <https://jvcc2022.jimdofree.com/>

- 郵送またはFAXでのお申込をご希望の方は、下記事務局までご相談ください。
- 分科会A、分科会Bはそれぞれから1つを選ぶ選択制です。各分科会は先着順です。それぞれ第1希望 / 第2希望 / 参加しないをお選びください。
- 二人目割引は同組織内の二人目以降に適用され、参加費から500円を割引するものです。必ず一人目の欄にお申込済みの同組織の方のお名前を記入してください。

***申込締切…2022年11月28日(月) 先着順**

※締切日前に定員に達した場合は、その時点で締切とさせていただきますので、お早めに！

②参加費のご送金

参加お申込受付け後、ご登録のメールアドレスにメールにて入金手続きのご案内をお送りしますので、参加費等をお振込みください。

一般 6,000円、二人目割引*5,500円、JVCA正会員・準会員 5,000円

*同組織の2人目以降の方へ割引があります

- 参加費等の入金をもって、正式なお申込といたします。
- ご入金後は原則として返金できませんのでご了承ください。
- 集会までにJVCAに入会すると、会員参加費との差額1,000円をキャッシュバックいたします！

○参加申込に関する個人情報の取り扱いについて○

参加申込でいただいた個人情報は、本研究集会の開催に必要な連絡調整、担当企画委員・講師への告知、今後の本研究集会と日本ボランティアコーディネーター協会の事業のご案内のみの目的で使用します。

- ただし、登壇者・運営スタッフには参加者の都道府県、所属団体、参加分科会などの基本情報を共有いたします。参加者の皆さまにも「参加者名簿(氏名・所属団体)」を閲覧できるようにする予定です。
- 参加される分科会によっては、本要項に明記されていない場合でも、事前アンケートをお願いすることがあります。

③当日のZoom ID 等のお知らせ

ご登録のメールアドレスにメールにてお知らせいたします。

Webページ

こちらからも→
お申込可能です。
Webページでは
分科会の登壇者の
プロフィールを
確認できます！



facebook

実行委員会の様子や
最新の情報を
アップしています。
ぜひ「いいね！」を
お願いいたします！



● ● ● 問い合わせ ● ● ●

市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 実行委員会事務局

Web:<https://jvcc2022.jimdofree.com/>

E-mail:jvcc2022@jvca2001.org Tel:03-5225-1545 FAX:03-5225-1563

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2丁目13番地 未よしビル別館30D

実行委員紹介

上田英司(日本NPOセンター) / 小原宗一(北区社会福祉協議会) / 開澤裕美(中央大学ボランティアセンター)
 鹿住貴之(JUON(樹恩)NETWORK) / 唐木理恵子(紬ワークス) / 菊池哲佳(多文化社会専門職機構)
 熊谷紀良(東京ボランティア・市民活動センター) / 栗原穂子(ぼらんたす) / 齋藤尚久(日本社会教育士会)
 佐藤正枝(日本社会福祉士会) / 佐藤美恵(ぼらんたす) / 杉浦健(共働プラットフォーム)
 仙波愛優佳(和光市社会福祉協議会) / 大藤毅(国立大洲青少年交流の家)
 竹脇恵美(長野県長寿社会開発センター木曾支部) / 蔦直宏(日本生活協同組合連合会)
 土崎雄祐(とちぎ市民協働研究会) / 土田恭仁子(宇治市社会福祉協議会) / 遠山昌子(生き方のデザイン研究所)
 戸田幸典(丹波ひとまち支援機構(たんえん)) / 橋詰勝代(高島市社会福祉協議会)
 早瀬昇(大阪ボランティア協会) / 疋田恵子(杉並区社会福祉協議会) / 藤井美香(横浜市国際交流協会)
 藤掛素子(明治大学ボランティアセンター) / 法橋聡(丹波ひとまち支援機構(たんえん)) / 明城徹也(JVOAD)
 武藤祐子(千代田区社会福祉協議会) / 文珠正也(日本協同組合連携機構) / 矢富明德(佐賀県国際交流協会)
 山崎智文(京都産業大学ボランティアセンター) / 後藤麻理子(日本ボランティアコーディネーター協会)
 神保彩乃(日本ボランティアコーディネーター協会)



認定特定非営利活動法人

日本ボランティアコーディネーター協会

Japan Volunteer COORDINATORS Association

参加の力を信じよう！～市民が主役の豊かで創造的な社会をつくる

市民が主体的に問題解決に取り組む社会を実現するために、一人ひとりの社会参加意識を高め、積極的に行動することを応援する専門スタッフとして「ボランティアコーディネーター」の存在はきわめて重要です。しかし、十分に社会的認知を得ていないことから、多様な分野で活動するボランティアコーディネーターの専門性の向上と社会的認知を進め、専門職としての確立を図ることを目的に、2001年1月に設立(同年8月にNPO法人化)いたしました。

JVCAの事業・活動の5つの柱

- 1 ボランティアの魅力と可能性を伝える
- 2 ボランティアコーディネーションの機能を普及させる
- 3 ボランティアコーディネーターのネットワークの確立
- 4 ボランティアコーディネーターの専門性の向上
- 5 ボランティアコーディネーターの社会的認知の促進

取り組んでいる事業

1 情報の収集と提供活動

- ① ニュースレターの発行
- ② メールマガジンの発信
- ③ ブックレット・書籍の発行
- ④ ホームページ・facebookの運営
- ⑤ 文献・データの情報収集



2 全国研究集会の開催

- ① ボランティアコーディネーターたちが一堂に会する <全国ボランティアコーディネーター研究集会(JVCC)>の開催



3 検定システムの実施

- ① ボランティアコーディネーション力 1級・2級・3級検定試験・直前研修の実施
- ② 合格者への情報提供
- ③ 1級・2級合格者のつとへの協力

4 研修・セミナーの開催

- ① ボランティアコーディネーター初任者向け研修の開催
- ② ボランティアコーディネーター実務者向け基礎・応用研修の開催
- ③ 研修講師の派遣

5 調査・研究活動

- ① JVCA会員・検定合格者の二重調査の実施
- ② グッドプラクティス事例の収集および認定
- ③ ボランティアコーディネーションに関する実務研修体系についての研究

6 ネットワークの推進

- ① 会員メーリングリストの運営
- ② CoCoサロンの開催支援
- ③ ボランティアコーディネーター基本指針の配布・普及
- ④ 国内外の関係団体との連携・協働

事務局 認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-13 末よしビル別館 30D

TEL03-5225-1545 FAX03-5225-1563

E-mail:jvca@jvca2001.org URL:https://www.jvca2001.org /

協 力

公益社団法人日本社会福祉士会
日本生活協同組合連合会
一般社団法人多文化社会専門職機構(TaSSK)
認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
社会福祉法人東京都社会福祉協議会東京ボランティア・市民活動センター
特定非営利活動法人ハンズオン! 埼玉
社会福祉法人大阪ボランティア協会
特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構
特定非営利活動法人ぼらんたす
一般社団法人生き方のデザイン研究所

後 援

社会福祉法人全国社会福祉協議会 / 社会福祉法人中央共同募金会 / 認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会
認定特定非営利活動法人日本NPOセンター / 公益財団法人日本YMCA同盟 / 特定非営利活動法人日本病院ボランティア協会
一般財団法人自治体国際化協会 / 特定非営利活動法人国際協力NGOセンター / 一般社団法人環境パートナーシップ会議
ESD活動支援センター / 一般財団法人児童健全育成推進財団



認定特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会
市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 実行委員会